



令和5年度  
東横堀川における水都大阪の新たなシンボル空間創出調査研究業務 報告書概要版

# 1. はじめに

# ①今年度の調査研究業務の方向性

## 昨年度までに明らかになった方向性

- 「沿川全体を歩けるように開きたい。」 「もっと水に近づきたい、触れたい。」といった水辺により親しめる空間が求められている。
- 多様な主体の「発意」を生かして公共空間の利活用を実装していくためには、協議調整、許認可申請などのサポートを行うコーディネート機能が求められる。



## 今年度の関係者の動き

- 2023年2月、東横堀川水辺プラットフォーム検討会が立ち上がり、官民連携まちなか再生事業にも採択され、公民連携による未来ビジョンの検討がスタート。
- 昨年度から今年度にかけて、大阪市河川課が「令和4年度公民連携による東横堀川水辺魅力向上調査検討業務」を実施し、社会実験や調査を行いながら今後の目指すべき東横堀川の水辺の魅力空間づくりについて基本方針をとりまとめる。

## 今年度の狙い：東横堀川南エリアの拠点化可能性を探り、関係者と連携して東横堀川の将来像を検討する

- これまで活動がなかった農人橋以南で東横堀川でチャレンジしたい人を募集し、東横堀川の認知度を広めるとともに、水に触れる体験を通して死水域など水面活用のポテンシャルを明らかにする。
- 東横堀川の関係者と連携しながらモデル例を効果的に実施し、これまでの本業務の調査研究成果を、官民連携の未来ビジョンに反映する。

## ② 関係機関等との調整

### (1) 河川課 意見交換・社会実験等の調整会議

---

#### ■ 目的

・東横堀川の将来像についてハードとソフトを一体的に検討するため、今年度実施される大阪市河川課の「公民連携による東横堀川水辺魅力向上調査検討業務」と連携する調整会議を開催した。

#### ■ 実施概要

- 第1回 6月9日(金) 14:00～15:00 ○河川課による春の社会実験の実施報告  
○水都大阪コンソーシアムによる秋の社会実験に向けての調整状況の共有
- 第2回 7月4日(火) 13:00～15:00 ○秋の社会実験の実施概要について共有・意見交換
- 第3回 8月24日(木) 16:00～17:30 ○秋の社会実験における水上の活用について共有・意見交換

### (2) 東横堀川水辺プラットフォーム検討会

---

#### ■ 目的

・東横堀川で実施される社会実験を東横堀川水辺プラットフォーム検討会が主催することで、東横堀川のまちづくりの情報発信を一元化するとともに、関係者が連携して一体的に調査検討を行い、ビジョンの検討に資することを目的として参加した。

#### ■ 実施概要

- 第1回 4月6日(木) 10:00～12:00 ○検討会発足にあたりこれまでの状況共有と今後の報告性について
- 第2回 5月29日(月) 14:00～16:00 ○モデルエリア(本町橋～農人橋)の公民連携のあり方について
- 第3回 8月21日(月) 18:00～21:00 ○未来ビジョン(骨子)について
- 第4回 2月7日(水) 18:00～20:00 ○未来ビジョン(素案)について

#### ■ 検討会メンバー

東横堀川水辺再生協議会、大阪商工会議所、大阪市関係課、中央区役所、(一社)日本シティサップ協会、(一社)水辺ラボ

## 2. 社会実験 春

# ①社会実験「東横堀川ING2023」開催概要

## ■日時

・5月28日（日）-6月4日（日）

## ■目的

閉鎖されていた水辺空間の利活用の可能性を広げる

- ・今後、護岸改修と水辺の再整備を目指す東横堀川において、その取組の第一歩として、これまで閉鎖されていた川沿いの遊歩道と橋の下を開放し、水辺や水上の利活用を体感してもらう。
- ・9日間にわたって川沿いの遊歩道や橋の下を開放し、本町橋から東横堀公園まで車道を通らず歩行できるようにする。また、遊歩道や橋の下を活用し、マーケットや音楽イベントなどを実施する。

## ■実施場所

・東横堀川緑道（本町橋～東横堀公園）

## ■主催

- ・東横堀川水辺プラットフォーム検討会
- ・大阪市建設局道路河川部河川課

## ■協力

・水都大阪コンソーシアム

## <パンフレット (A3/2つ折) >

表面



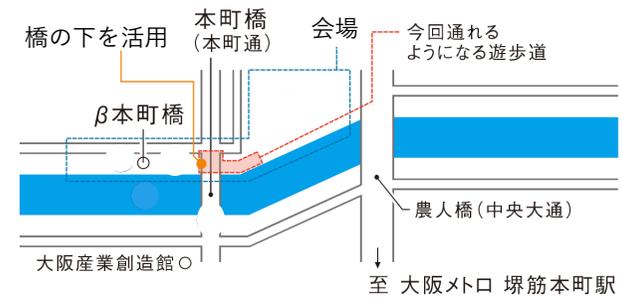
中面



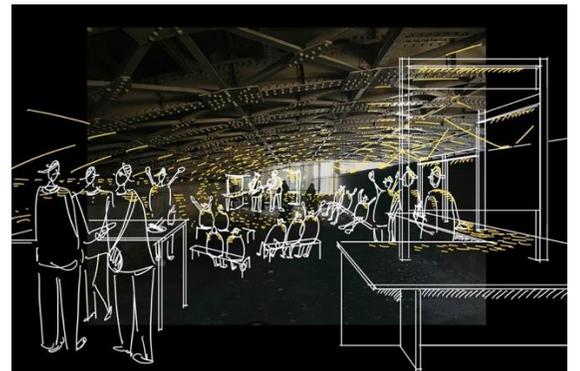
裏面



## <実施範囲>



## <橋の下活用イメージ>



# 東横堀川HISTORY展示

水都大阪コンソーシアムとしては、東横堀川ING2023春において、東横堀川の歴史やまちづくり、これらについてを知り、考える展示を行った。

メインの展示は本事業の昨年度に実施したZERO展の際に制作した大判の東横堀川マップとZERO視点を切り取った写真を活用し、東横堀川の魅力や活用アイデアを参加者に追加してもらう体験型の展示とした。



## 01 むかし 江戸時代から近代

浪花八百八橋と言われた江戸時代の大阪。水辺は「浜（はま）」と呼ばれ、水運の荷上げ場や蔵として活用され、まちから川へつながる階段護岸「岸岐（がんぎ）」や、水際の通路「犬走り」があり、生業と結びついて活用され、人々の暮らしになくはならないものでした。

## 02 戦後 戦後から高度経済成長期

第二次世界大戦で、大阪の都心部は大きな被害を受け、かつての姿が失われてしまいます。その後の戦災復興、高度経済成長期には、川上に高速道路、川沿いには背の高いコンクリート護岸が整備され、川とまちが分断。水辺には誰も近寄れなくなり、人々の暮らしは水辺から遠ざかりました。

まちの生業とともにあった 生きた水辺

暮らしの変化とともに 水辺とまちが分断

## 03 再生期 2001年～2021年

水辺とまちのつながりを取り戻し大阪のまちを再生しようと、大阪府・大阪市・経済界が協力して水都大阪の再生が始まります。東横堀川でも、水辺を愛する市民活動が盛り上がりを見せ、東横堀川水辺再生協議会（通称：eよこ会）を中心に、水辺のまちの将来を考えたり、お掃除や橋洗い、水辺の利活用につながる様々な実験を積み重ね、一步一步、水辺と人々の結びつきが復活します。

水辺とまちのつながりを むすびなおす

## 04 いま 2021年～

2021年8月28日、これまでの地域・市民の活動が結実しβ本町橋がオープンしました。東横堀川の水辺を、いろんな活動と主体が集まる実験場と考え、そこに関わる人とともに川とまちを耕し、発酵させ、水辺から暮らしの価値を生み出しています。

日常をアップデートする 水辺は暮らしの価値を育む

## 05 これから 2023年～

本町橋が110歳を迎える2023年。護岸耐震改修が本町橋-農人橋からスタート。高いコンクリート護岸で閉ざされていた水辺が開かれていきます。これを機に行政と民間が一体となり、これからの水辺とまちをどうつなぎ、ここならではの魅力ある水辺をどうつくっていくかの議論もはじまりました。これからの東横堀川は、みんなのINGを積み重ねることで新たな可能性を拓いていきます。

水辺とまちをつなぎ 可能性を拓く

# 3. 社会実験 秋

# ① 社会実験「東横堀川ING2023秋」開催概要

## ■日時

・9月22日（金）-10月1日（日）

## ■テーマ

・閉ざされた水辺から、開かれた水辺へ。そして、触れる。

## ■目的

### ・水上空間の利活用の可能性を広げる

これまでの調査で把握した「もっと水辺に近づきたい。」「水に触ってみたい。」という意見をふまえ、川に足をつけられるような水上空間をメイン会場として設え、公園では新しい活用方法にチャレンジできる空間とする。

### ・水辺空間を利活用する新たなアイデアやプレイヤーの発掘

2年間の調査の中で活用ニーズが少なかった南側エリアのキーポイントとなる場所で、日常的に水辺空間の近くで暮らす人々に対し、身近な“水辺の良さ”の体験機会を提供することにより、水辺空間に対する認知度や活用への意識を高める。

## ■実施場所

- ・東横堀川緑道（末吉橋の南東詰）
- ・東横堀川死水域（末吉橋の南東）

## ■主催

- ・水都大阪コンソーシアム
- ・東横堀川水辺プラットフォーム検討会
- ・大阪市建設局道路河川部河川課

## ■参加総数

・826名  
（内 水上バシャバシャテラス利用 274名）

### <実施場所>



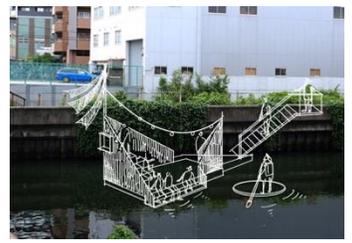
### <陸上と水上を活用したチャレンジ>



**陸上のチャレンジ**

- ①閉ざされた公園・公園予定地を開く
- ②市民の活動や界隈のお店のアイデアや、「〇〇したい」から多様な使い方を実践

### <水上バシャバシャテラスイメージ>



**水上のチャレンジ**

- ①船着場としての利活用
- ②水上に滞在で水上の利活用可能性を探る
- ③水質が向上した東横堀川の水に触れる

### <パンフレット (A4)>



## ③ プログラムの実施内容

### (1) 水上のプログラム

9.22 (金) - 9.30 (土) ※18:00-21:00はライトアップ  
バシャバシャテラス

#### [実施内容]

- ・陸上プログラム開催時は水上のバシャバシャテラスを自由に利用できるよう開放した。
- ・バシャバシャテラスでは川に足がつけられるゾーンを設け、子どもから大人まで足を水につけて楽しんでいただいた。
- ・陸上プログラムで販売している飲食などを水上で楽しんでいただいたり、パソコンを持ち込んで仕事をしたり、参加者が思い思いに過ごす空間となった。

#### [参加人数]

- ・274名

#### [効果]

- ・水に足をつける体験を通して、「水が冷たくて気持ちがいい」「思っていたよりも水質が綺麗で驚いた」という反応が多数得られた。

9.25 (月) - 9.28 (木) 12:00-20:00  
バシャバシャテラス  
フリーレンタル

#### [実施内容]

- ・プログラムを実施しない平日に、一般に向けてバシャバシャテラスの貸出予約を行った。
- ・基本的な使用ルールは通常時のバシャバシャテラスと変わらないが、自分たちでの飲食の持ち込みなどを行い、比較的自由的な使い方ができるよう募集をかけた。
- ・参加費は無料。

#### [参加組数]

- ・利用予約は2組  
(活用内容：空堀で働く方達の懇親会利用／リモートワーク利用)

#### [効果]

- ・普段活動しているエリアだが特別を感じられ、ある程度の個室間もあったため貸切での利用を良い体験だと感じていただけた。

9.23 (土) ,24 (日) ,30 (土) 12:00-17:00  
スワンボート

#### [実施内容]

- ・参加者はスワンボートに乗り込み、漕がずに水上に浮かぶ体験を行った。
- ・スタッフがスワンボートのロープを操作し、死水域外に出ないように誘導した。
- ・参加費は無料で行い、小さな子どもとその保護者が一緒に楽しむ姿がよくみられた。

#### [効果]

- ・バシャバシャテラスよりもキャッチーなアイコンとして子どもから大人までの視線を引いた。
- ・水上に足をつけるのは気が引ける人でも、より身近に水上を体験することができた。



### ③プログラムの実施内容

#### (2) 陸上のプログラム

9.22 (金) 17:00~20:00

##### 水上おでん屋台

〔運営〕(一社)おおさかもんイノベーション

〔実施内容〕

- ・世界に通用する大阪産(もん)として人気が高い“河内鴨”のアツアツおでんを陸上で販売し、水上で食べられるようにした。
- ・当日は雨天にもかかわらず、近隣の方などに来ていただき、完売となった。



9.23 (土) 12:00~20:00

##### 東横堀川でちょっと“Fujimarる”?

〔運営〕島之内フジマル醸造所

〔実施内容〕

- ・実施場所の川向いにあるワイナリー“フジマル醸造所”がキャンプワインのソムリエとコラボして、フジマル醸造所のワインとキャンプ風の串焼きを提供。
- ・昼も夜も水上でワインを楽しむお客さんで賑わった。



9.24 (日) 18:00~21:00

##### スウェーデントーチin末吉橋 + HISTORY CINEMA

〔運営〕スウェーデントーチin大阪PJチーム+上町電力

〔実施内容〕

- ・昨年度の東横堀川INGからチャレンジを行っているスウェーデントーチin大阪PJチームが、近隣の貸自転車屋兼自転車発電会社と共同で開催。
- ・陸上だけでなく水上バシャバシャテラスでミニスウェーデントーチを灯すことにチャレンジした。
- ・焚き火を眺めながら、自転車発電で実施場所付近の昔の写真や、戦後の大阪市内の様子をまとめた動画を投影。落語教育家による動画に合わせた歴史説明も行なった。



## ③ プログラムの実施内容

9.27 (水) 18:00~19:00

### お茶を淹れる、今を感じる

〔運営〕 grapefulwandering + 結音茶舗

〔実施内容〕

・谷町六丁目のお茶屋とコラボしたマインドフルネスの予約制プログラム。参加者はお茶を淹れる体験を通して、まちの音など自分の周りの感覚に意識を置き、心を整えるトレーニングを行なった。本社会実験唯一の水上のみのプログラム。



9.29 (金) 15:00~21:00

### 酒パンつつみ末吉橋店

〔運営〕 酒パンつつみ

〔実施内容〕

・2021年より東横堀川INGに参加している飲食店が、実店舗近くのエリアで初実施。日本のワインとパンのアテを販売し、平日の夕方からたくさんの来訪者で一時売切れもあったが、実店舗に取りに行くなど近さを生かした運営方法がみられた。



9.30 (日) 11:00~15:00

### あきちでプレーパーク

〔運営〕 長居プレーパークつくろう会/プレーパークたねっこ / もりまちっこ・まちっこパーク

〔実施内容〕

・昨年度の東横堀川INGからチャレンジを行っているプレーパークが、段ボールや緑道にある草木を使って段ボールハウスを作るなど、子どもたちが自由に遊ぶ屋外空間の活用チャレンジした。

・水上に降りられる子どもたちは水上と陸上を行き来して自由に空間を楽しんだ。



9.30 (日) 16:00~20:00

### 水辺の花と灯りの音楽会

〔運営〕 imamura/atelier leggero/sunth sunth/オロオロラジオ / yorozu imamura

〔実施内容〕

・実施場所近く美容師が主体となり、演奏者・キャンドル作家・花屋による屋外音楽会を行った。水上でもキャンドルに火を灯し、演奏の雰囲気作りを行ったり、夜でも花の色が見やすい工夫を行い老若男女に楽しんでいただいた。



# (1) HISTORY 展示

東横堀川ING2023秋において、東横堀川や実施エリアである末吉橋付近についての移り変わりを、江戸時代から現在、未来の時代に沿って紹介し、これまでの歴史とこれからの変化を体感してもらう展示を実施した。  
 なお、エリア周辺の特徴として住友銅吹所を紹介させていただくにあたり、住友史料館および大阪歴史博物館にご協力いただいた。



## 01 むかし

浪花八百八橋と言われた江戸時代の大阪。水辺は「浜（はま）」と呼ばれ、水運の荷上げ場や蔵として活用され、まちから川へつながる階段護岸「岸岐（がんぎ）」や、水際の通路「犬走り」があり、生業と結びついて活用され、人々の暮らしになくてはならないものでした。

## 東横堀川 ING 末吉橋 HISTORY 展示

### 江戸時代、大阪は銅産出で世界一。

江戸時代の大阪は日本一の工業都市。銅は最も有力な輸出品で、長堀川や西横堀川沿いには銅吹所が構えられ、船を使って荷運びを行っていました。1697年頃には約6,000tという世界一の産出額を記録し、海外からも頻繁に視察が訪れていました。  
 末吉橋の南西側には、長堀川最大規模の銅吹所「住友銅吹所」がありました。102m×36mの敷地を持っており、1636年から精錬事業をはじめ、1877年に愛媛県に銅吹所を移してから、洋館のお屋敷が川沿いに建っていました。

### 銅の精錬が分かる！ ガイドブック“鼓銅図録”

シーボルトなど海外からの視察も多かった住友銅吹所。銅吹所での工程を分かりやすく伝えるため、ガイドブック“鼓銅図録”が制作されていました。

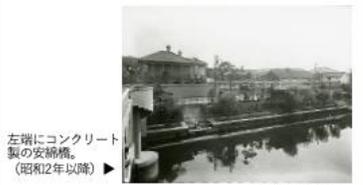
#### 銅の精錬の流れ

山元から銅吹所に運ばれた荒銅は含まれている銀の量によって選別される。

↓

**A. 銀が少ないもの**  
 荒銅を溶解し、不純物を取り去って純度を上げる。→精銅

<間吹の図>



かつて長堀通は川だった。

長堀駐車場やクリスタ長堀がある場所は、かつて“長堀川”が通っていました。川沿いを市電が走っていましたが、1960年に埋め立てられ今の姿になりました。

左側が東横堀川。長堀通から南に見た図となっています。敷地の北側には長堀川に面した階段型の護岸も見られます。



### B. 銀が多いもの

荒銅から銀を取り出し、精銅にし、取り出した銀も活用していた。

<合吹の図>  
 荒銅を溶かし、銀と結びつけるため鉛を吹き合わせる。→合銅

<南蜜吹の図>  
 合銅を加熱し、銀を含んだ鉛を溶かさせる。鉛と銅の融解温度差・比重の差を利用した分離作業。→精銅

<灰吹の図>  
 貴鉛を灰床で溶解すると、鉛は灰中にしみこみ、銀は灰の上に浮くので分離できる。→銀

## 02 いま

第二次世界大戦で、大阪の都心部は大きな被害を受け、かつての姿が失われてしまいます。その後の戦災復興、高度経済成長期には、川上に高速道路、川沿いには背の高いコンクリート護岸が整備され、川とまちが分断。水辺には誰も近寄れなくなり、人々の暮らしは水辺から遠ざかりました。



写真提供：橋爪紳也コレクション

◀ 末吉橋から九之助橋を見た様子だと思われる。水面と建物の距離が近く、川にせり出している部分も見られる。  
現在は護岸ができ、川幅が狭まっている。▼



## 03 これから

2001年、水辺とまちのつながりを取り戻し大阪のまちを再生しようと、大阪府・大阪市・経済界が協力して水都大阪の再生が始まりました。東横堀川でも、水辺を愛する市民活動が盛り上がりを見せ（東横堀川水辺再生協議会・本町橋100年会）、2021年には水辺のまちづくり拠点としてβ本町橋がオープンし、さらに将来的には川沿いが公園・緑道となって歩けるようになる計画になっています。

末吉橋も、現在のコンクリート造となって96年。歴史ある橋や水辺に、みんなの「やってみたい」を積み重ねることで新たな可能性を拓いていきます。



水上を  
使ってみよう



東横堀川ING  
インスタグラム



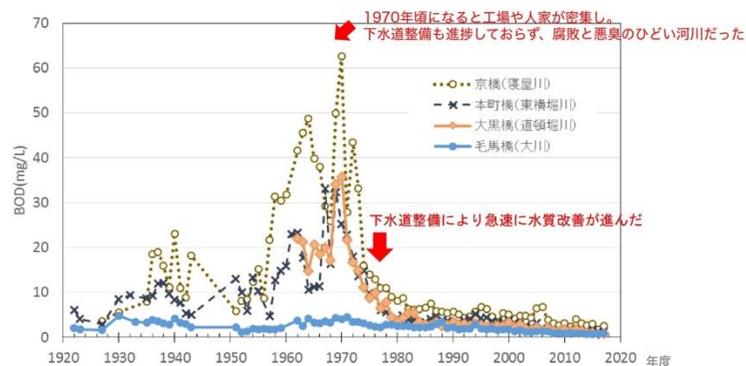
## (2) 水質展示

水上バシャバシャテラスの実施にあたり、東横堀川の水質や水環境について紹介する展示を行った。

参加者は陸上でバシャバシャテラスについての注意事項やルール説明を受け、水質展示を確認したのち水上の体験を行った。実際に水上に降りると水質が改善されていることを実感できたとの声を多数いただいた。

### 東横堀川って、実はきれいになっている！

- 河川の汚濁度を表す指標として一番よく使われる指標がBODです。(Biochemical Oxygen Demand, 生物化学的酸素要求量)
- 大阪市内では1922年から測定している経年変化がわかります。一時はとても汚い川でしたが、下水道整備が進み、最近は見違えるように改善されています。



市内河川主要地点のBOD経年変化

(出典：「東横堀川はどれくらいきれいになったのか？」大阪市立環境化学センター 藤原康博氏)

### 東横堀川の水は、触って大丈夫なの？

- 川の水質は、流れや時間帯によって変わり、測定方法もいろいろあるので、「この川はコレ！」と言い切るのが、専門家でも難しいそうです。
- 「泳げる水質」の基準については、国が示している基準があります。【下図参照】
- 最近の道頓堀橋（道頓堀川）・β本町橋（東横堀川）での水質調査では、それぞれ透視度が100、COD値が5、6でした。(阪南大学 長谷川ゼミ、2023年8月)
- 川に顔をつけて泳ぐことは難しいですが、手足を川に入れてバシャバシャすることは安全に楽しんでいただける水質です。

ランク	説明	ランクのイメージ	河川の水質		透明度	透明度
			透明度	透明度		
A	泳げる水質 (泳ぎやすい)	泳ぎやすい	100以上	透明	2mg/L以下	1m以上
B	川の中に入って遊びやすい	川の中に入って遊びやすい	70以上	不透明でない	5mg/L以下	50cm以上
C	川の中に入れないが、顔に近づけることができる	川の中に入れないが、顔に近づけることができる	30以上	不透明	8mg/L以下	1m未満
D	川の奥に顔が近く、川に近づけない	川の奥に顔が近く、川に近づけない	30未満	不透明	8mg/Lを超え	50cm未満

区分	菌類の存在	COD	透明度
AA	不検出	2mg/L以下	1m以上
A	100個/100mL以下	5mg/L以下	50cm以上
B	400個/100mL以下	8mg/L以下	1m未満
C	1,000個/100mL以下	8mg/Lを超え	50cm未満
不通過	1,000個/100mLを超え	8mg/Lを超え	50cm未満

水浴場の判定基準 (環境省)

「人と河川の豊かなふれあいの確保」に関する評価レベル(案)

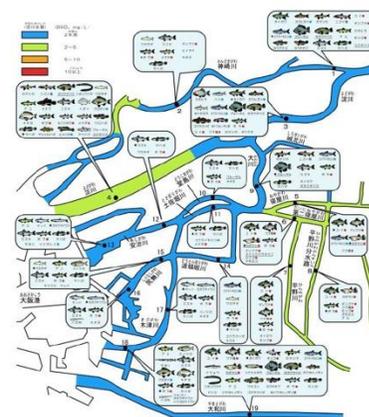
(H21年、国土交通省河川局河川環境課)

### 大阪の川には生き物がいっぱい！

- 東横堀川には実は魚や水鳥など生き物がたくさん。カメやコイ、ボラ、ブルーギルなど、見つけてみてくださいですね！
- 「大阪市内河川魚類生息状況調査」において、きれいな水質でなければ生息できない魚種として「コウライモロコ」や、「アユ」「コイ」が道頓堀川で発見されています。



コウライモロコ  
市内河川魚類生息状況調査結果 (R4, 大阪市環境局)



(注) ① 資料の 00 は平成 23 年度のデータを参照しております。  
② 各地域で確認された個体数が 2 個体以上のものはイラスト付き、1 個体以上のものは種名のみ表示しています。  
③ 種名に引いたアンダーラインは、その種が河川で生息することを確認しています。  
④ (括弧) は、きれいな水質の指標を示しています。  
⑤ (括弧) は、汚染された水質でも生息が確認されています。  
⑥ (点線) は、各地域において最も個体数が多かった種を示しています。

市内河川魚類生息状況調査結果 (H29, 大阪市環境局)

## ■実施内容

- ・ 昨年実施した東横堀川ZERO展に引き続き、カメラマンによるモデル例の記録を行った。
- ・ モデル例の記録を残すことで、変化が始まる前の「ゼロ」の現状と比較したアーカイブを可能とした。

## ■カメラマン：増田好郎氏

1971年、兵庫生まれ。国内外の雑誌や広告媒体で活躍中。

〈2022年度〉



〈2023年度〉



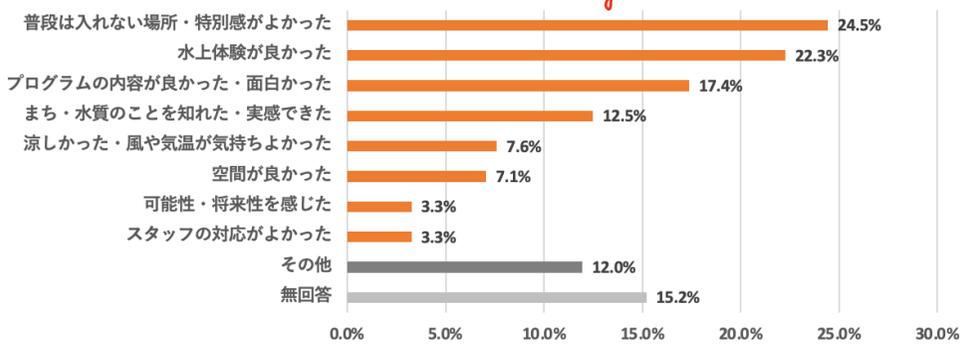
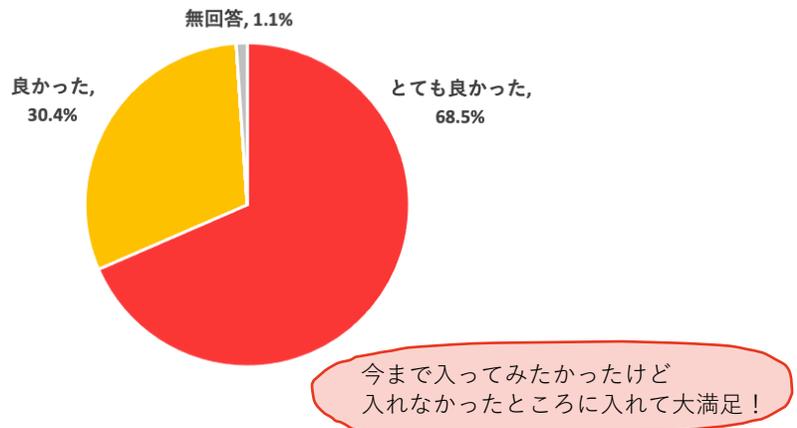


## (2) 調査結果

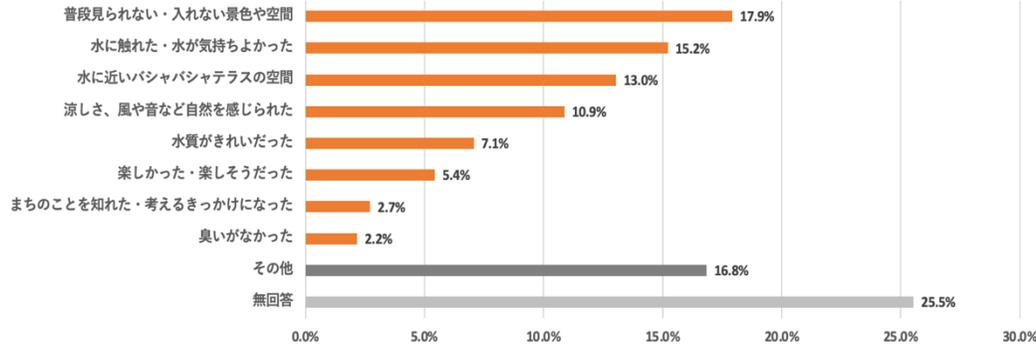
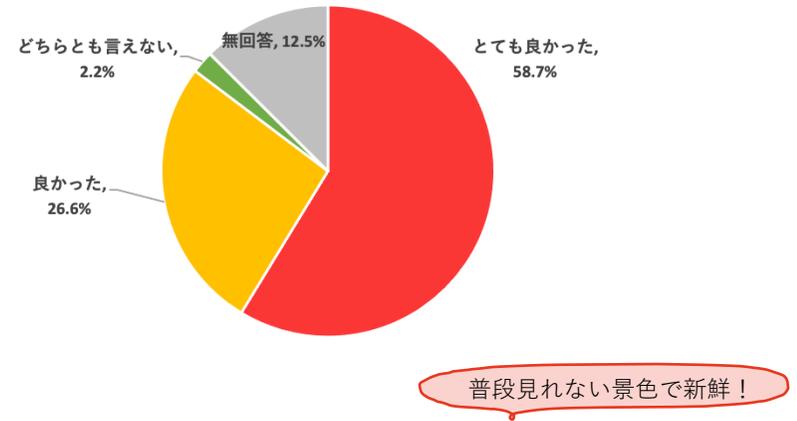
### 1) 東横堀川ING2023に参加した感想

- 参加者アンケートでは、プログラムに参加してとても良かったと感じた方が68.5%、 バシャバシャテラスに降りてみてとても良かったと感じた方が58.7%であった。
- 理由としては、「普段は入れない場所・特別感がよかった」「水上体験がよかった」「水に触ることができた・水が気持ちよかった」など空間の特別感や実際に水上に降りて水に触れられることについて良かったと感じた方が多かった。

〈プログラムに参加した感想〉



〈バシャバシャテラスを利用した感想〉

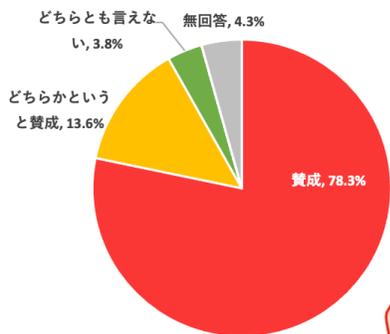


# ⑥ アンケート調査 - 水上活用・末吉橋エリアのニーズと課題 -

## 2) 末吉橋周辺の整備について

- 現在、末吉橋周辺の緑道は閉鎖された公園となっているが、今後整備され自由に入出りできるようになることに賛成の方が78.3%で、新しい川沿いや水辺を楽しみだと期待する声が多かった。
- 現在、東横堀川には本町橋しか船着場が整備されていないが、末吉橋周辺に船着場が整備されて船に乗れる場所が増えることについて賛成の方が61.4%で、水面の活用の仕方について面白く感じ、楽しみや期待感をもつ声が多かった。
- 南北に3kmある東横堀川で水辺の拠点はあるが本町橋周辺にある“β本町橋”しかないが、今後末吉橋周辺を新たなにぎわい拠点とする可能性について可能性を感じている方が79.4%で、周辺住民やまちとの親和性が高いという意見が多かった。

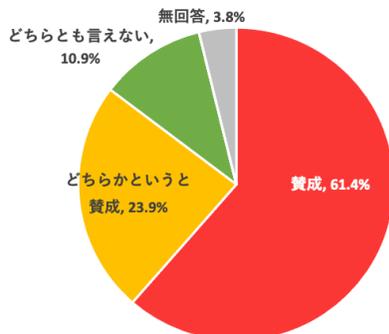
〈末吉橋周辺の公園の自由な出入り〉



都会の中に公園が少ないので、川沿いのスペースを使うアイデアが良い！

せっかく水辺が近いのだから活かしてもらえると嬉しい！

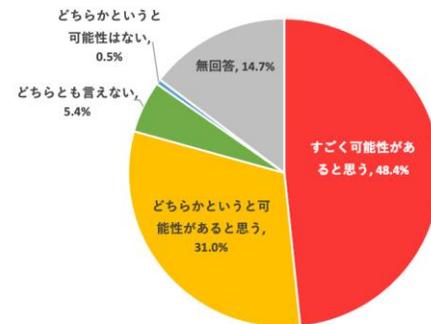
〈末吉橋周辺の船着場整備〉



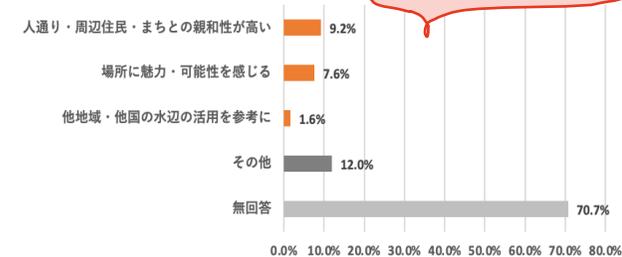
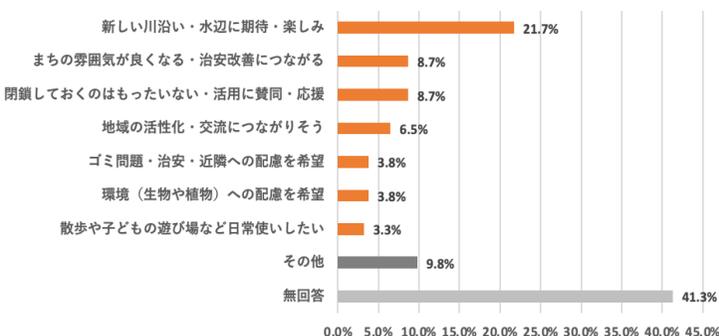
大賛成！空堀の港になると思う。

いろんな人に楽しんでもらいたい！

〈末吉橋の拠点化の可能性〉



心斎橋など大阪の中心にも地下鉄やバス停などの駅も近くて利便性が高い！



## ⑦ ヒアリング調査・ワークショップ

### (1) 有識者へのヒアリング調査

東横堀川沿川の利活用にあたり、今後の利活用に資する意見を得るために有識者へヒアリングを実施。

#### 1) 有識者 (大阪公立大学大学院農学研究科准教授 武田氏)

- 東横堀川ING2023秋で水上バシャバシャテラスを使用してみて、いつもと視点が変わり、水面を見ているだけと体感することの違いを感じることができた。橋の上の人と手を振り合う体験ができるとさらによかった。
- 今後の水辺整備は、きれいな直線の護岸ではなく場所ごとに陸側の要素や特性が滲み出ると面白い。船からの目線も意識してみてはどうか。
- 水辺利用のイメージがつきづらいため、飲食など分かりやすい実験を重ねて説明を続けることで、沿川（とくに南側）の方の認知や活用の可能性も広がるのではないか。
- 末吉橋での今回の社会実験は、夜の風景がよかった。普段は治安の問題もあるだろうが、電球が灯っているだけで自分のまちに帰ってきた安心感などにつながる。

### (2) オープンミーティングの開催

オープンミーティング形式により、末吉橋を中心とした東横堀川の活用について多様な主体のヒアリング・意見交換を実施。

#### 1) オープンミーティング2023秋

- 東横堀川は、川が縦長なのでエリアごとに特徴付けた整備がいいのではないかと。末吉橋周辺は住んでいる人や子どもも多い地域なので、安全に楽しめ、普段から身近に感じる要素が必要。（景色を眺める、一息つける、ぼんやりできる空間）
- 末吉橋は駅からも近いので、音楽や飲食イベントができる駅前広場的な要素を含めるのもいいのでは。個人、店舗、団体など誰でも予約すれば使える仕組みであってほしい。
- 普段橋の上から見ていただけだったが、今回の社会実験で実際に水上に降りてみて良い印象が変わった。クルーズは値段も高いので、日常的に親しめる水都大阪ならではの通勤船などがあるといい。末吉橋はメトロともアクセスがいいので水上の駅としてのポテンシャルも高い。
- 末吉橋周辺はいろんな地域ネットワークが既にあるので、公園が地域の新しいコミュニケーションの場になるといい。ただ、観光客や地域外の人でも気軽に参加できる空間にしていくことが課題。

## 4. 今後のあり方への提案

# ①3年間のとりまとめと東横堀川水辺未来ビジョンへの反映

以下のような3年間の本調査研究業務の成果や今年度の河川課調査業務での検討を反映し、東横堀川水辺プラットフォーム検討会にて「東横堀川水辺未来ビジョン（素案）」を取りまとめていく。令和6年度からは、水都大阪コンソーシアムとして検討会に参画しながら、ビジョンを元に適切な役割を担いつつ、東横堀川におかえる公民連携のまちづくりおよびビジョン実現に向けて取り組んでいく。

東横堀川シンボル空間創出調査研究業務（水都大阪コンソーシアム）

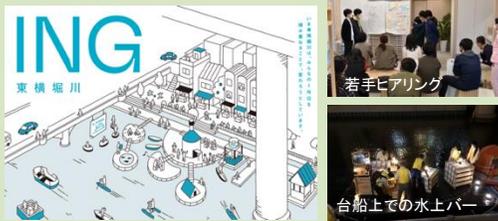
## R3

- 意向把握の実施
  - 沿川地域や活動団体、若手にヒアリング等で意向把握
  - モデル例の実施によるニーズ調査
- 明らかにになった意見・ニーズ
  - 沿川全体の水辺を歩けるように閉鎖されたところも開きたい。
  - 多様な主体の発意で利活用するところから水辺を開いていき、空間づくりにつなげていきたい。
  - もっと水に近づきたい、触れたい。

まちづくりの方向性を整理

### ■東横堀川における新たなシンボル空間創出・水辺のまちづくりの“5つの方向性”

- 活用価値の高い連続した水面を最大限活かす
- 水辺へのアクセスを増やして南北を通して歩けるようにする
- 沿川のプレイヤーや企業が活躍できる仕組みを整える
- 公共整備と民間事業を連動して一体的な水辺空間づくりを目指す
- 埋もれている歴史的な文脈を発掘して多様な主体の共感をつなぐ



・水上活用の可能性を高める“死水域”が東横堀川のポテンシャルである。

## R4

- “5つの方向性”実現に向けての試行実施
  - 昨年度整理した“5つの方向性”を実現するために、水上・陸上を活用してみたいプレイヤーを公募し、9件のプログラムをモデル例として試行した。



明らかにになった課題と成果

### ■活用を実践するまでの課題と水質環境の改善

- 東横堀川の水質、整備された公園や緑道、その予定地においては、調整・協議・許認可取得が多様な関係者（地域、関係者、管理者、地権者など）との間で必要。
- 本町橋以南での試行がなく活用可能性が検証できなかった。
- 東横堀川の水質は改善され、飲水しなければ触っても問題ないことが分かった。

必要な仕組みの整理

### ■公共空間で多様な主体の発意を実践するためのサポート

- 企画・アクションを専門的なアドバイスでブラッシュアップ
  - 行政等の既存の制度・仕組みの中で翻訳し、関係各所との協議・調整、許認可取得を行う
- 日常の利活用へと実装するためには、既存のルール枠を越えて、新たな仕組み・制度を提案・検討するコーディネーターが必要。

・多様な主体が公共空間を活用するために必要なサポートと仕組みのあり方

## R5

- R4年度の成果と課題を踏まえた試行実施
  - 以下の2点を検証するため、大阪市河川課や東横堀川水辺プラットフォーム検討会等の東横堀川の関係者と連携し、東横堀川の南側エリアで社会実験を実施。



明らかにになった可能性

### ■東横堀川南側エリアの拠点化・水上活用の可能性

- 末吉橋を中心に、閉鎖された公園や水上に対する地域住民や近隣事業者の利活用ニーズが高い。
- 公園が整備され自由に入出入りできることや、船着場として舟運に親しめる場所になることに対する期待感が高く、新たにぎわい拠点として可能性が高い。
- 東横堀川の水に足をつける体験や、水面により近づく体験を通して、水辺に近い空間の良さや街中の水の気持ちよさへのポジティブな反応が多い。

3年間の成果を東横堀川水辺未来ビジョンへ反映

未来ビジョンへの大きな反映ポイント

・東横堀川南側エリア（末吉橋）の拠点化の可能性

## R6～

① 川とまちをつなぐ情報発信

② 水上を活用したブランディング

③ 水辺の活用チャレンジへの支援

官民連携ビジョン  
(東横堀川水辺プラットフォーム検討会)

検討会  
設立

未来ビジョンの検討  
東横堀川 ING2023 春  
東横堀川 ING2023 秋

未来ビジョンの策定

公民連携による東横堀川水辺魅力向上調査検討業務 (大阪市河川課)

「東横堀川等の水辺の魅力空間づくり基本方針(案)」の検討

「東横堀川等の水辺の魅力空間づくり基本方針(案)」取りまとめ

## ② 今後の取組方針と事業イメージ

「東横堀川水辺未来ビジョン（素案）」に取りまとめているように、今後は公民がそれぞれの役割を担いながら連携して事業を進めていく。未来ビジョンと水と光のまちづくり推進会議で定めた2024年度事業の方向性を踏まえて、水都大阪コンソーシアムでは以下の取り組み方針で東横堀川のまちづくりに取り組む。

### ①: 川とまちをつなぐ情報発信

#### ■目的と内容

沿川のつながりの認知を広め、より水辺に親しむ機会を創出するため、水辺に近づける入口や通り抜けができる箇所、橋のたもとなどに、サインプロモーションを展開する。水辺のアクセスルートとともに、利活用の案内や近隣のお店情報、まちや川の歴史など、川とまちに関する魅力情報をまとめて発信するなど情報発信を強化する。また実施の検証を行うことで、継続的な実施体制やより効果的な実施方策の検討を行う。

#### ■事業イメージ

##### ①水辺に親しむサインプロモーション

・海外の人でも分かりやすい多言語表記やピクトグラムでのアクセスルートの表示

##### ②川とまちの情報がわかるガイドブック等の配布・公開

・エリアの歴史コラムなど川やまちの魅力情報をまとめた冊子の発行

・近隣のお店や川やまちに関連する情報（イベントや行事、活動内容）のSNS・WEB発信



・Fieldwork Facility(ロンドン・デザイン会社)  
結束バンドのようなもので固定された駅から新開発エリアまでの案内表示



・豊田市美術館サイン(株式会社キジュウロウヤハギ)  
壁に設置されたサイン



・West Colfax Connects(アメリカ・コロラド州)  
徒歩・自転車が安全に通行できるよう地面に書かれた標識

### ②: 水上を活用したブランディング

#### ■目的と内容

2025年大阪・関西万博に向けて増加が見込まれるインバウンドや国内利用客に向けて、水都大阪の魅力発信を行うため、水都大阪のブランディングとして水上を活用したにぎわいづくりを行う。街中の河川というポテンシャルを活かし、短い距離でも気軽にまちと水上を行き来できる大阪市内を巡れるプログラムや、東横堀川の安全安心な水上を活用したイベントや取り組みを行う。

#### ■事業イメージ

##### ①船と陸で移動するまちのクイズラリー

・水都大阪の教科書などを活用した謎解きクイズラリー  
・まちと川の両側で楽しみながら歴史や魅力を発見できる

##### ②小型船を活用した水上タクシー/バス

・市民から観光客までが気軽に乗船できる短距離移動の定期便

##### ③水都を感じる盆踊り

・水上に構えたやぐらと川沿いの一般参加者に分かれて水陸一帯で楽しむ盆踊りの実施



・SeaBubbles(フランス)  
時速12km以上になると船体が浮く水上タクシー



・中大江盆踊り  
東横堀川沿川地域で行われている盆踊り

### ③: 水辺の活用チャレンジへの支援

#### ■目的と内容

計画されている東横堀川の護岸耐震改修工事を受けて今後東横堀川沿川の整備が進んでいく中で、沿川事業者や地域活動団体、本調査研究業務を通して活動を継続している活動主体などの水辺のステークホルダーとのつながりは不可欠である。本調査研究業務でも明らかになったように、水辺の活用にチャレンジしたい人と行政の窓口となるなどの支援を継続的に行うことで、公民連携の東横堀川のまちづくりに取り組む。

#### ■事業イメージ

##### ①公民をつなぐ活用窓口

・公園の美化や新たな活用につながる活動が継続して実施できるような支援を実施

##### ②活用チャレンジ月間の試行

・多様な水辺の利活用を発掘し、水都大阪のネットワークづくりのためのチャレンジ受入期間を実施



・東横堀川ING2023秋  
普段は閉鎖された公園や水上を活用して様々な主体によるチャレンジを受け入れた社会実験





## 令和5年度 東横堀川における水都大阪の新たなシンボル空間創出調査研究業務 報告書概要版

発行日：2024年3月

発行：水都大阪コンソーシアム

(大阪商工会議所、公益社団法人関西連合会、一般社団法人関西経済同友会、大阪府、大阪市、  
公益財団法人大阪観光局、大阪シティクルーズ推進協議会)

調査研究協力：株式会社ワイキューブラボ